

酒々井町

郷土研究会会報

第133号

平成21年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

『奨励賞』を受賞

この度、酒々井町郷土研究会は、設立（昭和五十二年）以来の功績が顕著であるとして県郷土史研究連絡協議会より奨励賞を受賞しました。

奨励賞

酒々井町郷土研究会様

貴団体は昭和五十二年設立以来町域の民俗行事植生等を研究し会報発行及び行事を通じ住民の歴史認識を喚起した功績は誠に顕著でありますよってここに表彰します

平成二十一年 六月十三日

千葉県郷土史研究連絡協議会

会長 樋口誠太郎



如意山経胤寺縁起

古川 好夫

経胤寺は康治二年（一一四三）に千葉氏五代常胤公の創建で当初は真言宗の寺で常胤寺と称していた。

境内は約九千坪あり、常胤公の岩（出城）で三方に堀を囲わせていた。一説には常胤公の奥方の菩提を弔うために創建されたと伝えられています。

京都総本山妙満寺直末のお寺で宗派は顕本法華宗、本尊は日蓮聖人眞定の大曼荼羅です。

宗派改宗と寺号改称

室町時代の大永元年（一五二一）

法華宗に改宗、当時日蓮大聖人を宗祖にいたたく宗派が林立したが各宗派とも固有の宗名を持たず、法華宗あるいは日蓮法華宗などと名乗っていた。

我が宗派は法脈を区別するため「日什門流」、「妙満寺派」などの通

称を用いていた（妙満寺は日什上人により創建された）。

明治九年（一八七六）「日什門流」は「日蓮宗妙満寺派」を公称するが同三一年（一八九八）に宗派の教義をより明確に表す「顕本法華宗」に改称し今日に至っている。宗名の顕本とは「閑迹顕本」という法華経の教えを表現した言葉から取られたものです。その意味は「ご入滅されたお釈迦様は今もなお永遠の命を持ち続け、常に人々に慈悲の心を注いでいる」ということです。

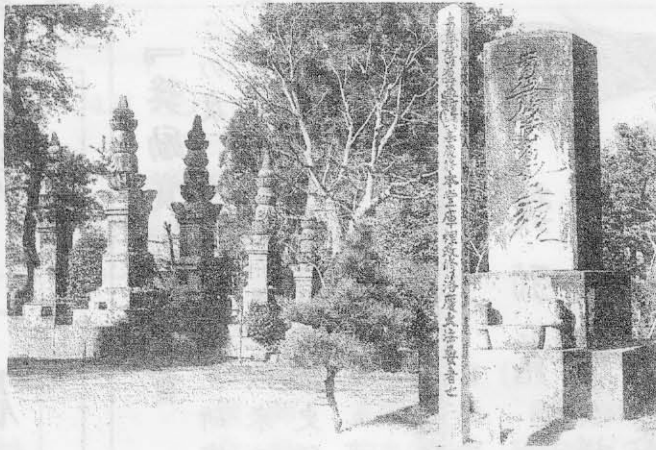
江戸時代の元禄年中（一六八八〜一七〇三）、佐倉城主戸田山城守忠昌の帰依によって、寺領三万坪を有し末寺五ヶ寺、寺内に六坊、総門、鐘楼、泰師堂があり大寺としての伽藍が配置されました。また、寺号を如意山経胤寺と改めました。

ご本尊とお題目

信仰の対象として心をこめて拝むのがご本尊です。ご本尊は、お釈迦さまが法華経を説法されている様子を日蓮聖人が文字で顕わされたもので、お曼荼羅とも言います。その内容には、仏・法・僧の三宝を中心に様々な菩薩、神、高僧の名が記されています。

ます。ご本尊は、お釈迦さまの悟りの世界そのものであり、その大慈悲心を顕したものです。

お題目とは、「南無妙法蓮華經」のことです。南無とは、帰依する、信仰しますという意味です。法華經は、正式には「妙法蓮華經」と言い、すべてのお經の中でも無上最高の教えです。お題目をお唱えすることによって、私たちの心とお釈迦さまの心が交わり合うものです。



宝篋印塔と巨石供養塔

経胤寺本堂

この本堂は、宝形造りの五間堂で正面に一間の向拝がついています。

本堂周辺に一・七m幅の廻り縁を持ち、均整のとれたよい姿をしています。延宝三年(一六七五)建立の棟札があつて、建築当時の構造がよく残されており、江戸時代中期初頭の建築として貴重であり、また酒々井町最古の木造建築物として、町指定文化財となっています。

宝篋印塔と巨石供養塔

- ・ 二・三〇m 承応四年三月
- ・ 三・三六m 寛文七年七月
- ・ 四・四五m 寛文七年十月
- ・ 四・八三m 寛文九年八月
- ・ 四・四五m 寛文九年天大吉日

巨石供養塔には「南無妙法蓮華經」と見事な髭題目が刻まれ、江戸時代の風格をよく現している刻字です。文政五年(一八二二)三月建立、棹石高二・〇六m、幅八二cm角で、その巨大なることまさに偉観です。経胤寺檀信徒の層の厚さを現しています。

現在は、往時ほどの規模はありませんが、それでも境内面積二千三百坪、境内霊園三〇〇区画などがあり、まさに歴史と由緒のある広大な寺院です。

市川の文学・歴史散策

丸山 正義

三月十日、朝方の雨も上がり、総勢三九名、「市川案内人の会」ガイドさんの先導で、京成国府台駅をスタート。

江戸川堤の上は、や、北風が冷たく感じられたが、足下の犬ふぐりや姫踊子草の可憐な花に心を癒され、「羅漢の井」から里見公園に足を踏み入れた。

北原白秋の旧居「紫烟草舎」の説明を受け、北條・里見の国府台合戦で敗れた里見氏の「霊墓」や「夜泣き石」、次いで六世紀後半の豪族の墓「明戸古墳石棺」を経て、太田道灌建立の「国府台天満宮」にお参りし、曹洞宗の古刹「安国山総寧寺」の前を通り、パンジーの咲き乱れる花壇公園で昼食。

午後は、下総国府跡・下総総社「六所神社」跡を通り、僧行基により奈良時代創建の「真間山弘法寺」に参拝。樹齢四百年、滝のように枝垂れるまだ蕾の固い「伏姫桜」を鑑賞。伝運慶作の黒塗りの義眼入りの「仁王像」を拝し、万葉集で詠まれた「真間の井」(復元)の説明を受けた後、

「手児奈靈堂」へ。伝説の美少女手
児奈姫の悲しい物語も、良縁・安
産・子育ての女神となつて、今はこ
の御堂に祀られているとのこと。



手児奈堂

明により理解が深まり、多くの文学
碑にも触れ、充実した一日となつた。
厚くお礼を申し上げます。

俳句三首

緑酔

一樹なり紅白競ひ梅開だけ
四百年古刹を守りし枝垂桜な
水温む万葉偲ぶ手児奈堂

酒々井の植物調査

野草部

「緑豊かな酒々井町」と言われて
います。郷土研究会では、恒例行事
の一つとして春と秋に皆さんと一緒
に野草観察会を行つてきました。

野草の名前を覚えていくのは楽し
みです。しかし一度聞いただけで覚
えるものもあれば、何度聞いても忘
れてしまうものもあります。見分け
のつき難いものも沢山あります。

野草は、採り尽くしたり環境が大
きく変わらない限り、その場所に行
くと観ることができるものなので
す。そして、観察会が行われる春秋
だけでなく一年中そこで生きていま
す。ロゼット状で冬越しをするもの、
土の中で春を待つもの、種をこぼし

ているもの、様々な色の実をつけて
いるものなど、色々なカタチで冬を
過ごします。そして春には大きな変
化をみせます。若い芽を生じるので
す。更に葉を伸ばし、蕾を持ち、花
を咲かせます。やがて結実し、種と
なつていきます。それは、多くの植
物がそれぞれの季節をたゆまず成長
しているということです。

そんな野草の一年間の移り変わりを
を観察しながら、季節々々にみせる
姿を写真に撮り記録できればと、一
昨年から「本佐倉城跡とその周辺」
及び「酒々井北部地区(伊篠方面)」
に自生する植物について調査・記録
を行い、資料集(写真集)にまとめ
ました。

・「本佐倉城跡とその周辺の植物」
時期 十九年の毎月 延九〇日
確認植物 二九七種

・「酒々井北部地区の植物(伊篠編)」
時期 二十年の毎月 延三六日
確認植物 一六九種

この二編の資料集は、図書館・酒々
井小学校・大室台小学校・酒々井中
学校・酒々井町教育委員会に収めま
した。

調査をすることにより、酒々井町

ここで解散となり、希望者のみ
「下総国分寺」に向かった。
現在は国分山国分寺の本堂が建
っているが奈良時代の本堂・講堂・
高さ六〇mの七重の塔の跡地にそ
れぞれ碑があり、創建当時の法隆寺
様式による伽藍配置を窺い知る。
今回は、お二人のガイドの豊富な
知識と経験に基づき、懇切丁寧な説

の植物の豊かき、素晴らしさをより一層実感しています。これら植物をいつまでも残していくために、今の環境を守っていくことが私達の努めであると思います。

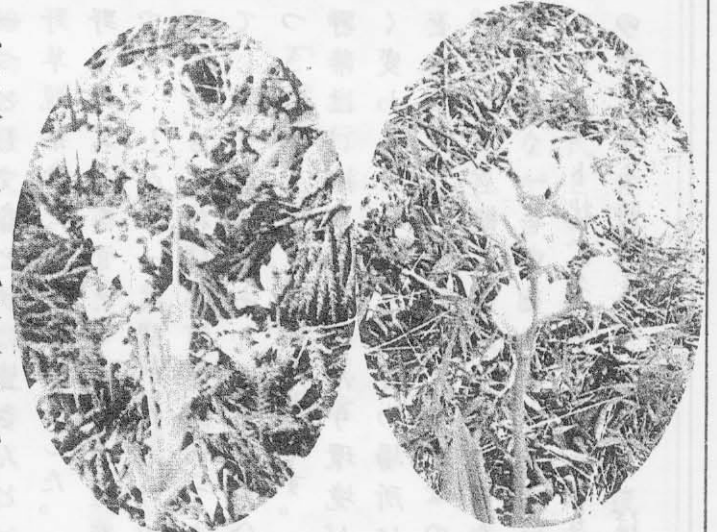
なお、調査した植物は、これから順次、会報の観察メモ等で紹介していきます。

野草観察会に参加して

浜口 信義

四月二十八日久し振りの町外の観察会で、カラー写真の豆図鑑風の資料を受け取り、町バスで芝山町の「グリーンポートエコ・アグリパーク」と「芝山水辺の里公園」の観察地に行きました。ここは成田国際空港の所有地で、NPO法人「成田里山を育てる会」が空港と協力して、荒れ放題だった里山を整備し遊歩道を作ったもので、案内板も有り、安全な観察地になっていました。

パークの入口から下り一方の遊歩道が続き、歩道脇の草むらから観察を始めました。野草部の犬島さんと大沢さんが列の前後について説明と質問を受けて下さり、多くの野草の名前や特徴を知ることが出来ました。



エビネ

キンラン

私は今までの観察会で見たことのない無かったキンラン「金蘭」・エビネ「海老根」(いずれもラン科)と、スギナ(トクサ科)を観察できて良かったと思います。特にスギナは、「一億数千万年前、恐竜全盛時代に栄えたシダ類の一つで、多くは絶えてしまった中で生き残った数少ない最古の植物と言われている。」と、亀井香久乃さんが郷土研会報九六号で説明されています。

昼食は場所を変えて、空港近くのさくらの山公園です。ジェット機が轟音をたてて着陸態勢に入り、機体

の腹や脚が間近に見えると、広々とした空港全体を轟音とともに見渡しながらの食事となりました。良い経験の半日となり、有難うございました。

《観察メモ》

「シユンラン」(ラン科)

待ちわびた春の訪れを告げるように咲くシユンラン(春蘭)。唇弁に入った斑紋をホクロにみたて、別名「黒子」、地方によっては、「ジジババ」「ジンジンバ」「ジイトンバ」と呼ばれています。

雑木林など明るい乾いた場所を好む常緑の多年草です。酒々井でも、春に清楚な姿が見られます。見つけたら、いつまでも在るように、大切に見守って下さい。



県外見学会

「六日町方面」に参加して

松本 諒子

五月十二日朝七時、爽やかな風を受けながら酒々井を後に一路新潟県南魚沼市に向け出発。

見慣れた景色を見ながら流暢なガイドさんのお話を聞き道路の渋滞もなく湯沢で昼食となりました。朝が早かったせいも皆様美味しそうに召し上がっていました。

最初の見学地は、坂戸城跡(国指定史跡)。大河ドラマ「天地人」の長尾景勝(のちの上杉景勝)と樋口与六(のちの直江兼続)が春日山城に入るまで過ごした城で、石垣と土囊のみがありました。案内人の話で何となく坂戸城が想像できました。

次に「愛・天地人博南魚沼」を見学。会場ではテレビドラマの撮影時のエピソード等が映像化されていて、とても興味深く感じ、また、南魚沼市民が一体となってドラマ天地人にあやかり町興しをしている様子に凄さを感じました。

夕方早めに宿に入り、ゆっくり温泉につかり、お楽しみの夕食。後はお決まりの宴会となりました。



坂戸城跡

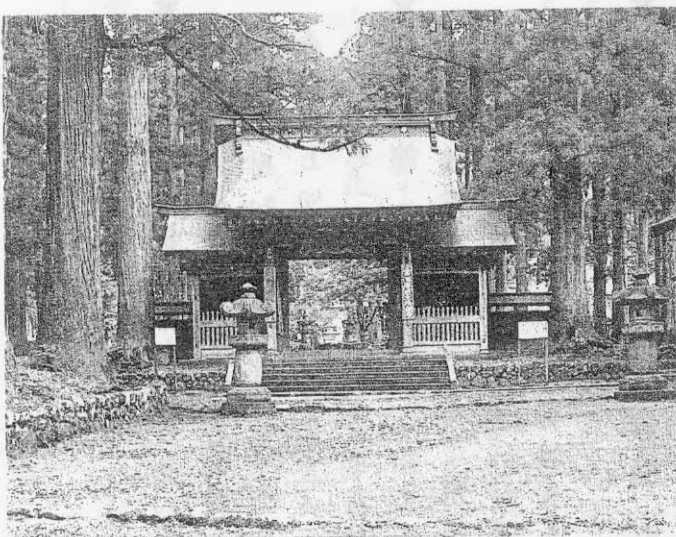
二日目の朝は雨。ところがバスが出る時には雨もあがりラッキーでした。最初の見学地は雲洞庵。ここは景勝と兼続が将来、名将となるべき基礎を培った所です。師は通天存達(我が国最初の大学足利学校に学んだ秀才)で、二人の成長に強く影響を与えたと言われています。今訪れても静寂と厳肅さが感じられました。

次に上杉謙信が戦勝祈願した場所として知られている浦佐毘沙門堂を見学。今から千二百年前に征夷大將軍坂上田村麻呂により建立されたお

堂で、そのお堂へ行くまでの敷石の見事なこと。お題目を唱えながら歩くと良いことがあると聞き、私も唱えながら歩きました。

最後の見学となった鈴木牧之記念館。雪国の生活がどんなに大変であるかが、展示されている品々を見てよく解りました。帰路は塩沢(魚野の里)にて昼食をとり、渋滞もなく予定通り酒々井到着となりました。

二日間の楽しい旅に参加させて頂き、本当に有難うございました。お世話になりました。



雲洞庵

町制施行120周年記念

郷土史講座の

ご案内

「戦国時代の房総と郷土」

講師 高橋 健一氏

八月二十三日(日)

午後一時三〇分

中央公民館研修室

酒々井という地名表記が登場するのは近世初期からです。そして、長い間にわたり「しゅすい」と呼ばれていましたが、明治二十二年の合併による現在の酒々井町誕生を機会にして「しすい」という呼び名に変更されたようです。

これ以前、戦国時代の郷土は「作倉」「佐倉」として登場します。千葉氏が千葉の平山城から千葉の長峰城に移り、その後、ここ佐倉の地に拠点を移したことがその大きな要因です。このことがなければ、佐倉という地名が記録されることはなかったかもしれません。

香取海の入江の一つであった印旛浦(現・印旛沼)は、水上交通の要衝でした。その利便性が、千葉氏の佐倉移城の背景の一端であると考えられています。

そこで、古河公方足利氏、後北条氏、里見氏といった周辺領主の動向とからめながら、国指定史跡・本佐倉城跡の存在意義と戦国時代の郷土の姿を探ってみたい。

町制施行120周年記念

「小絵馬展」を開催!

七月三十日(木)

八月二日(日)

酒々井町中央公民館

絵馬の歴史は古く奈良時代には奉納の習慣があったと考えられます。絵馬は、日本人の心の万華鏡であるといわれ、酒々井町はその保有数が、県下で六番目に多い町です。

今回、絵馬の寺として有名な吉祥寺さんから借りした、一五〇年程前の人々の悩みと願いが表現された「乳絞り」など代表的な絵馬と、初代会長故相京晴次氏や会員が集められた現代の小絵馬を、会員をはじめ、町内外の皆様に見て頂こうと公民館に展示いたします。

夏の四日間ではありますが、是非ご覧頂きたいと思えます。

郷土研

トピックス!

★ 史談会の教材は七月から「成田参詣記」に変わります。高橋健一先生の豊かな知識に裏付けされた有意義で楽しいお話が聴けます。この機会に是非一緒に勉強しませんか。

★ 公民館より、六月から始まる「しすい学講座」の講師派遣依頼があり、高木副会長が酒々井の歴史、史跡、文化財等についての講話をおこないません。

★ この度、当郷土研究会は、町発展のために格段の尽力、協力をしたとして、酒々井町より「町制120周年特別記念表彰」を受けました。

会計報告

《野草観察会(芝山方面)》 (4月28日)	
収入	15,000円
参加費	500円×30名=15,000円
支出	15,840円
保険料	2,340
資料準備等	10,500
諸経費	3,000
差引	△840円 (野草会計より補填)
《南魚沼市六日町方面》 (5月12・13日)	
収入	604,000円
参加費	22,000円×27名=594,000円
その他	10,000円
支出	627,594円
ミヨシ観光	606,480円
諸雑費	21,114円
差引	△23,594円 (郷土研より補填)

< 郷土研日誌 >

月日	活動内容	参加者
3.27	会報印刷	5
3.31	会報発送(第132号)	18
4.4	町内史跡めぐり打合せ	12
4.9	「酒々井の歴史」講師派遣	1
4.10	県外見学会、野草観察会 申込受付	8
4.23	「酒々井の歴史」「自然観察」講師派遣	3
4.24	「野草観察教室」講師派遣	2
4.28	野草観察会(芝山方面)	31
5.2	史談会(和田見学)	10
5.12~13	県外見学会(南魚沼市六日町方面)	27
5.19	研修部々会、広報部々会	10
5.22	「野草観察教室」講師派遣	2
5.30	運営委員会(7~9月期行事日程)	17
6.3	名勝探訪(皇居と靖国神社方面)	32
6.5	会報編集会議(第133号)	5
6.6	史談会	11
6.11	会報編集・読合せ	5
6.13	県郷土史研究連絡協議会総会出席 「郷土研奨励賞」を受賞	3
6.16	小絵馬展検討会	14
6.18	会報編集・校正	5
6.21	会報編集・校正、割付け	5
6.24	会報編集・最終校正	5

見学

案内

名勝探訪

尾上方面

九月十六日(水)
雨天代替九月十八日(金)
五月に予定していた「町内史跡巡り」が雨天のため中止となりましたので、今期の名勝探訪で同じコースを歩いてみたいと思います。大勢の皆様の参加をお待ちしております。



秋の野草観察会

馬橋の

「まがり家」周辺

九月三十日(水)
雨天中止

観察場所は、酒々井里山フォールムの方々が、馬橋場々の荒廃した森林を整備し、切り開いてこられた約一・五kmの自然観察路周辺です。彼岸花等自生している所もあります。見頃は年により多少前後するのですが、観察時に、一面燃えるような花盛りに出会えればいいですね。

中央公民館から「まがり家」までは、車に乗り合わせで行きます。昼食後、勉強会を行います。二時頃現地あるいは公民館にて解散予定です。

計報

元監事の福田豊吉氏には、四月二十四日ご逝去されました。(享年八十八歳)長らく郷土研究会の運営にご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

あとがき

盲目のピアニスト・辻井伸行氏のヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール優勝や、ここに至るまでの親子の生き方は感動的な出来事でした。クラシック音楽を聴かない私でも、彼のピアノ演奏は心に響き感動を与えてくれました。

郷土研では七月三十日より四日間、「小絵馬展」を開催の予定です。郷土研で保管してある小絵馬を見せて頂きました。面白いもの、変わったもの、色鮮やかなものがあり興味深く鑑賞しました。今回は吉祥寺の小絵馬をお借りして展示します。今から楽しみにしています。皆様も御期待ください。大勢のご来場をお待ちしております。



郷土研行事案内

平成21年7月～9月

	7 月	8 月	9 月
史談会	4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」① 講師：高橋健一先生	休 講	5日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」② 講師：高橋健一先生
郷土史講座 (町制施行 120周年記念)	「戦国時代の房総と郷土」 日 時 8月23日(日) 開演 13:30 (開場 13:00) 講 師 高橋健一氏 (酒々井町郷土研究会) 会 場 中央公民館 研修室(2階) 後 援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会		
小絵馬展 (町制施行 120周年記念)	「小絵馬展」 期 間 7月30日(木)～8月2日(日) 場 所 中央公民館 会議室(1階) 時 間 7月30日 13:00～16:30 7月31日 9:00～16:30 8月 1日 9:00～16:30 8月 2日 9:00～15:00 後 援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会		
名勝探訪	「尾上方面」 9月16日(水) 雨天代替日 9月18日(金) (問合せ 7:45～8:15 寺本まで) 参加費 100円 その他 弁当、飲み物、敷物等は各自ご持参下さい。 集合時刻・場所 9:00 中央公民館前広場 コース 中央公民館…東光寺…下台麻賀多神社…小盛田古墳…住吉神社 …尾上双体道祖神…《昼食・尾上青年館》…正福院…墨分校…泉光院 …中央公民館 (約 8キロ) 15:00頃 帰着予定 (コースに一部変更の場合あり)		
野草観察会	「馬橋方面」 9月30日(水) 雨天中止 (問合せ 8:20～8:40 犬島まで) 観察場所 馬橋・まがり家周辺 <自家用車で送ります> 参加費 300円(資料代他) その他 弁当、飲み物、敷物等各自持参 *残暑の折、帽子もご用意ください。 集合時刻・場所 9:25 中央公民館前広場 勉強会は、昼食のあと行います。 (14:00頃 帰着予定)		